

「第 16 回 “本気” で語ろう会」 会議録

団体名	美里吾平コミュニティ協議会
日 時	平成 27 年 6 月 4 日（木）18 時から 20 時まで
場 所	吾平総合支所 2 階会議室
参加者	美里吾平コミュニティ協議会（福園健一会長外 16 名）
	市長、原口副市長、市長公室長、吾平総合支所長、地域活力推進課長、吾平地域政策課長、吾平産業建設課長、広報広聴課長 （オブザーバー：産業観光振興監、総務課長、吾平市民生活課長）

1 吾平地域の特性を生かした産業振興について

提案：吾平地域の産業振興については、特に基幹産業である農業において、畜産やピーマン、なす、かぼちゃ等の施設園芸に取り組んでおり、平成 26 年度の J A の総会では、20 億円の売り上げを目指しているとの話があった。

高齢化により農家人口が減少しており、農家の平均年齢は 65 歳を超え、担い手、後継者もない。生産基盤・生産体制をどう維持していくかが重要である。

このような中、「かのや農業・農村戦略ビジョン」を策定された訳だが、策定にあたっての市長の思いと、市政の中でどのように推進していくのかを聞かせていただきたい。

また、吾平の特性として 1 町 1 農協が挙げられ、行政と農協の繋がりがとても密接であった。行政なくして、農業発展はなかった。鹿屋市としても昔の吾平どおり取り組んでほしい。

提案：若い人が夢と希望を持ちながら、農業で生活できないといけない。吾平地域では、ピーマンの研修生として新規で 7～8 人が研修している。今年も新たに 3 名が新規就農を目指して研修しており、施設園芸については、ある程度産地化が進んできた。

今後、I ターン・U ターンの方も含め、市と一緒に取り組めればと考えている。若い人を育てていく必要がある。

提案：新規就農支援について、ピーマンは東串良を中心として、肝付、串良等の旧東部 5 町で広域的に取り組んできており、生産組合 139 名のうち 18 名が吾平出身である。

吾平地域の農業生産額は畜産を除くと 7 億円程度であるが、5～6 年後にはピーマンだけで同程度の利益を上げられると考えている。

ただし、地元だけでは生産者の人数が増えない。志布志はほとんどが I ターンの方で、40 名程だった人数が 80 名程に増え活気がある。吾平も同様の形で取り組めれば、若者も増え地域の活性化にもなる。市の支援をいただきたい。

回答：後継者育成について、例えば輝北の農業公社ではスプレーギクに取り組んでいたが、花の価格の下落や、花には関税がないことから世界を相手にすることが難しいこともあり、素晴らしい宿泊施設等は整備されているものの、研修生が来

ない状況である。この施設が鹿屋地域や吾平地域にあれば良いかもしれないが、曾於農協の出資であり、鹿屋市内に3つの農協があることも農業公社の扱いを難しくしている。

一方で、吾平地域には農業をされている良い見本になる方がたくさんいるので、そういった方のところで一緒に農産物を作り出荷すればよいと思う。より良い物作りや価格を上げるための支援を検討し、将来地域の中核となる後継者を育てていかないといけない。

今回策定した「かのや農業・農村戦略ビジョン」は、川上ではなく川下から見た農業活性化を特徴としている。これは、農産物の売り先、流通、販路に力を入れ、バイヤー等とのネットワークを強化し、色々な出口に仕分けできるような仕組みを作る必要があるためであり、このことは農協と一緒にあって取り組む必要がある。

水稻については、早期の「イクヒカリ」や胚芽米等に付加価値を付けて売っていかないといけない。どんな米作りをすれば高く売れるのか、いかにブランド化するか、消費者目線・バイヤー目線で考えないといけない。

また、吾平地域は、露地野菜の大規模化を目指しているが、農地集積を凶ろうとしても、借り手はいるものの土地の貸し手が少ない状況である。露地野菜であれば、10町歩程度の農家を育てないといけない。地域で決めた人に農地を集積して、農業経営をしないといけないし、そういう農家を育てないと、飯が食えなくなると思う。中核となる土地の守り手を、地域の皆さんで育てないといけない。今後のTPPや輸出産業を考えると、現在、40%程度の集積を90%程度まで上げる必要がある。農家戸数は減っていくが、経営者を育てていかないといけない。

一方で、中山間地には効率的な農地が少ない。そういった農地を守るのは、高齢農家や兼業農家等の皆さんであり、里山を守っていただいている。戦略的な農業と地域を守る農業は分けて考えるべきである。

また、加工も大切である。新しく開設された大隅加工技術研究センターには良い機械があるので使ってほしい。

提案：志布志では農業公社で2年間研修するが、私は鹿屋に公社を作る必要はないと考えている。農家で研修する吾平方式で取り組めば良いと思うし、そういった研修生が美里あいら農業祭の中で「あいら一番」に認定されている事実もある。

また、1ターンを考えたとき、ぜひ空き家を使っていただきたい。空き家を活用できれば、1ターンしやすくなる。

回答：今、空き家バンク制度に取り組んでおり、バンクに登録した方に改修等の補助金を出している。ただ、空き家はたくさんあると聞いているが、登録される方が少ない。ぜひ皆さんも空き家を持っていれば総合支所に話をしていただきたい。

また、程度の良い空き家があれば簡易宿泊所としても使え、例えば盆や正月に実家に泊まれない方など対象に活用することができる。

提案：新規就農する際には、初期投資が少ない施設園芸が取り組み易いのではない
か。農協と市が一緒になり取り組んでいけばよい。

回答：ぜひ、一緒になって取り組んでいきたい。

提案：神野地区は中山間地域であり、イノシシが出て非常に困っていたが、対策用
ネットを市からいただき大変ありがたかった。

回答：対策としてワイヤーメッシュ等の補助を実施しているが、人が行き交うよう
に環境を整備すれば、人の気配に反応してイノシシも寄ってこないと思う。ワイ
ヤーメッシュの補助など鳥獣害対策については、最大限に努力する。

提案：商店街に協力をもらいながら、祭りやイルミネーションに取り組んでいるが、
イルミネーションについては個人でやっている状況である。イルミネーションを
敷設する際の木の剪定については、2年前から農業高校の生徒さんにボランティ
アでお願いしている。今後、農業高校生とコラボして菓子やジャムを作り、特産
品として出していきたい。

なお、現在、イルミネーション等は寄付金で実施しているが、このための助成
金等あれば商店街の活性化に繋がると思うので、ご協力をお願いしたい。

回答：各総合支所に全体で500万円の地域で使える予算がある。ぜひ、地域で考え
活性化のために使ってほしい。

ただ、イベントについては手作り感が必要で、例えばイルミネーションを子ど
も達に敷設させたりするなど、作る人、見る人、総参加で作っていくことで愛さ
れるイベントになると思う。

また、年月と共に市民の数は減っていくが、地元出身で東京や大阪で頑張っ
ている人がいる。いかにこの人たちに地元の応援団になってもらうかが大切である。
市の人口は10万人でも、市外の地元出身者を0.5人で数えれば50万人にもなる。
関東・関西の吾平会の方々もいる。たくさんの応援団を求めることが大切である。

提案：鹿屋市は3つの農協を抱えているが、今回の農業・農村戦略ビジョンは市全
体を見たつくりをしている。できれば、市長の諮問機関として、農業振興審議会
なりを吾平・輝北・串良の各地域に作っていただきたい。地域ごとに産業振興が
違うので、それぞれの特色に合わせれば更に活性化すると思う。

回答：今年、合併から10年経過した。次の10年に攻勢をかけるためには、市全体
を見た上で、地域別に産業全般に渡って考えることが大切なので、今後検討した
い。

2 合併 10 年目を迎えた今後の総合支所のあり方について

提案：地域住民の安心安全の中心として、総合支所と共に取り組んでいるが、総合支所に行くと、4月が来る度に職員が少なくなっており、この状況で地域サービスを継続していけるか不安になる。総合支所の将来像を聞きたい。

回答：まず、お伝えしたいことは、必要なものは残していくということである。

ただ、吾平地域は道路も良くなっており、市役所本庁から15分位で来ることができるなど利便性も高まっている。

その上で、今、総合支所の業務について細かい部分まで分析しており、この業務は総合支所に残す。この業務は本庁へ。本庁の業務も場合によっては総合支所へなど、業務の所管をもう一度検討・議論している。このことは、地域の皆さんにもお諮りしながら決めないといけないので、今は精査中であるが、今後提案したいと考えている。

提案：市の施設で、現在使われない部屋がある。こういった所を施設の近隣の方などに開放し、避難所として使えないか。例えば、総合支所の空き部屋や、鉄道記念館などが考えられる。

回答：指定避難所については市内に57箇所あるが、指定避難所は、職員を配置し、常に市役所と連絡を取れる体制が整っていることが条件であり、簡単に増やすことはできない。ただし、短期の避難をするための仮の施設として、自分達で運営できる場所であれば、避難所として使っていただくことは可能なので、公民館等も含め、市の施設や農協の施設など、それぞれに相談していただきたい。

提案：総合支所の将来について、地元の人に話を聞けば、ほとんどの人が残してほしいと思うと思うが、市の財政を考えると難しいと思う。

市長が、将来を見据えて支所廃止を判断された場合は、先頭に立って、リーダーシップを持って、この問題に取り組んでいただきたい。

提案：産業振興を考えたとき、地域が栄えるためには、身近なところで連携を取りつつ取り組まないと難しいと思うが、総合支所に出て来ると寂しさを感じてしまう。今残っている主な課は、継続して残すべきではないか。

回答：総合支所に、どういう仕事があり、どういうお客様が来所し、どういう利便性があるかを検証している。人口は減るが高齢者は増えるので、場合によっては高齢者が役所に行かなくてもサービスを受けられるやり方を考えれば、新しい需要が生まれてくるかもしれない。

一方で、将来、支所に2～3人職員を残したとして、その人数でどう業務を行えるかとも思う。確かに、居住地の近くに支所があれば行きやすいということはあるが、大きく仕事をするためには、色々な部署が一緒にあるほうが良い。現

在、調整中なので、今後お示ししたい。色々なご意見をいただきたい。

また、輝北総合支所では、庁舎内にキッズルームを作り、子育て世代が集える場所を提供している。郵便局も入る。吾平総合支所も施設の有効活用を考えていただきたいので、アイデアがあれば出していただきたい。

提案：総合支所がどうなるかは、市民の話題になっている。地域からすれば総合支所は拠り所なので残してほしいという意見が総意である。職員数にしても、昔は80人程いたが、今は30人位である。

提案：市全体で地域活性化をどうするか考えると、今までの長い歴史の中でそれぞれの地域のまとまりがあるので、総合支所は地域活性化のための拠点作りという意味もあるということも考えてほしい。

回答：総合支所があることで、地域の活性化と利便性にどれだけ寄与しているかを考えると、色々な考え方が出てくると思う。今、分析中なので、検討させていただきたい。

3 その他

提案：選挙の期日前投票を見ると、吾平総合支所に笠之原からも来ている。吾平には来やすいと聞いている。

回答：本庁舎では、6階で期日前投票を行っているが、エレベーターに乗って行くのは大変だと思う。プレハブでも良いので、1階で投票が行えるようにするなど考えてみたい。

提案：吾平地域は挨拶がよく、町内会のまとまりも良い。吾平山陵など素晴らしい歴史を持った吾平に、輝北地域や串良地域からも人が来る。そう考えると、吾平は来やすい場所ということである。

交流や宿泊施設として湯遊ランドあいらを生かしながら、郷土芸能の練習場所として総合支所を使うなど、利便性を生かした考え方が必要だと思う。

提案：神野地区としては、少子高齢化が問題であったが、よその土地からであってもこの地に来てもらい、田舎をどうにかしてもらえれば良いと考え、市長にも見ていただき、トレッキングコースも予算をつけていただいた。市長からも神野は本当に良いところだと言ってもらい、本当にありがたい。

何とか神野を盛り上げたいと考えている。

回答：地域は、周辺から衰退していくと言われている。鹿屋市を見たとき南が神野、北が市成であるが、ここを歯止めとして地域づくりをきちんとすれば、中の方も

潤うと思う。

そのキーポイントは人材である。神野の方も見に行かれた、さんがうら（熊本県球磨村）の体験交流館の話だが、そこは公募で決められた館長がおり、すばらしい管理運営を行っている。地元に戻ってきた人などで、地域のために一肌脱ぐような人を見つけ、皆さんの後に続く人材として育ててほしい。

提案：吾平地域は、ここ 20～30 年間に 7,000 人規模の人口を維持してきた。これは、働く場や住む場の確保をしてきたからである。働く場としての総合支所も残るように考えていただきたい。

また、高齢化が進み、民俗芸能を担当する方がいなくなった。喜んで取り組んでくれる若者や、練習に集まる人もいない。秀でた芸を持っている方々を市で登録して、芸を磨くための研修会など実施すれば良いのではと考えている。

回答：民俗芸能に関わらず、竹細工などの工芸の技も含めて、名人登録制度は面白いので、検討してみたい。

提案：中山間地の農業については、大規模化だけに目を向けると荒廃していく。良い状態にするには手をかける必要があり、このことは高齢者でも対応可能である。市も中山間地の農業について考えてほしい。

回答：高齢農家や、兼業農家の力も重要なので、色々な制度を活用しながら地域の原風景を守っていききたい。

提案：頼んでも耕作してくれない土地は、みどりサークル等を活用してほしい。

また、空き家登録の制度については、あまりにも内容が細かすぎるので活用し辛い。それから、吾平地域において、もっと利用し易いバスを走らせてほしい。

提案：肝属川の汚れがワースト 3 とのことであるが、振興局の裏に流れている鹿屋川をきれいにしてほしい。

回答：空き家についてはバンク制度を導入したが、空き家がたくさんあると聞くわりには登録が少ない。皆さんからもぜひ声かけをお願いしたい。

また、川の浄化については頑張っているが、生活排水や笠之原台地の畜産農家への対応もしっかり行っていく。国交省の浄化施設もあり、現在 24 時間で対応しているが、やはり元を断たないと川の浄化は難しいので、養豚業者等にもご理解をいただきながら対応していく。

吾平川はきれいか。

提案：吾平川はきれいで、上位から 7 位くらいに入っている。

提案：行政無線について、住宅が山の中だと入りにくい。放送が聞こえない等のトラブルがある。

回答：中継局があるが、電波状態については調査をすると思うので、担当課に伝えておく。

提案：先ほども話に出た、「かのや農業・農村戦略ビジョン」では、川下や6次産業化の取組に力を入れるとあったが、やはり1次産業である農業が大切なのでしっかり取り組んでいただきたい。

回答：生産現場にとっては、人材、土地の問題、資金の支援が基盤となる。これを組み合わせながら努力したい。

提案：花火について、吾平と同じ日に古江もあり今年は同時開催となった。どうして同じ市の花火大会の日程をきちんと決められないのか。

回答：非常に申し訳ないと思っている。

去年も、農業まつりとサイクリング大会が同じ日にあった。今後は、しっかり調整していく。

副市長：吾平総合支所には、新しい支所長が4月に着任した。吾平地域の振興を職員一丸となって取り組んでいくので、よろしく願いしたい。

協議会副会長：今日は本音を聞いてもらった。今後とも吾平地域が発展するように、市にも力を入れていただきたい。